

# 日本を中心とした、東アジアに 新しいコミュニティをつくれ



ノルディン・ソビー  
(マレーシア戦略国際研究所 (ISIS) 所長)

私はここで、「東アジア・コミュニティを作る」という構想から始めたいと思います。10年前、この考えは滑稽だと思われていました。しかし、今は実現できるという考えに変わってきています。

初めに、日本がこれまでのように、東アジアともっと密な関係を作っていくべきかどうかということをお問自答しなくなったことは良かったと思います。その代わりに、この必要性を認め、どういうふうに達成すべきかという話題に移ったことは喜ばしいことです。今回のこのセッションで私どもに具体的に問われているのは、日本はどのような形で東アジアの隣国と良い関係を作っていくことができるだろうかということが問われているわけです。

個人であっても家族であっても、あるいは部族であっても、自分たちのいるところが気に入らないならば、天気の良い日に引っ越すということを考えることができます。しかし、その国の人口全部が、一緒になってどこかに引っ越すことはできませんし、ましてや国全体が場所を変えることはできないわけです。つまり、日本が新しい住所や新しい環境に、新しい村に引っ越すことはできないわけです。ですから日本がいいと思っても悪いと思っても、中国の

本土を西に抱え、朝鮮半島の南のほうに位置するという固定の住所を変えられないわけです。このような選択肢は日本だけではなく、他の国にとっても同じです。近隣諸国の環境がよくないという場合であっても、なんとかわれわれの環境を改善するように努力する他はないわけです。

第2の点としまして、こういったことを一方的にやるかどうか。あるいは協力的にやるかどうかという問題が出てくるわけです。われわれの近隣諸国の人たち、そして国家の人たちと一緒にやるかどうかということです。好意的な人もいるでしょうし、好意的でない人もいるでしょう。そういう人たちとどういうふうにするかということです。一部そのやり方は明確です。今日においても将来においても覇権主義的なやり方、パックス・アメリカナ的なやり方、パックス・ニッポニカ的なやり方、パックス・チャイナ的なやり方、あるいはパックス・アセアン的なやり方を東アジアに関してやろうということになれば、これは論外です。このようなことはできないということです。これはある意味ではわれわれにとっても非常に幸運です。と言うのも覇権主義的なやり方というのは、あまり生産的ではないわけです。特に被覇権的な国に

としては良くないことですし、また覇権的なやり方というのは覇権国家にとってもあまりいいものを与えるわけではないからです。また、全部自分でやろうということ、独りぼっちでやろうということ、例えば大東亜共栄圏という構想が何年か前にありましたが、そういうやり方というのは英雄的で自分のエゴを満足させるのにはいいかもしれません。男らしいやり方に見えるかもしれません。あまりいろいろな人の考え方、見方、意見、訴え、嘆きを聞かなくていいということだからでしょう。しかし、われわれの地域においては既に相当の流血事件が発生していますし、惨劇も経験しています。その中でナイーブに簡単な一時的な解決策に飛びつくことはできないような状況になっていると思います。合理的な選択としては、とにかく近隣諸国と一緒にあって、お互いに相互に利益があり、勝ち組に入ることができるような解決策を編み出し、そして啓示的にどんどんその関係が強化するようなものを築いていく他はないと思います。そういう意味において、協力的な繁栄圏、あるいは協力的な平和の構築、協力的なお互いの思いやりというようなものが大事ではないかと、これを第3点目に申し上げます。

今回のディスカッションは必ずしも経済問題だけを中心に話してはならないと思います。今までのところ、そういう意味においては、かなり経済の問題あるいはビジネスの問題が中心的に進められてきたと思います。もちろん経済の問題は大事な問題です。物理的な発達も非常に大事です。しか

し、この地域としての政治的な発展も同時に大事だと思います。平和と安定というのは、経済の発展と繁栄にとって非常に大事です。平和にとっては、経済の進歩と繁栄がやはり条件となることが重要です。そして、東アジアにおいてわれわれが構築しなくてはならないものは、ただ単に繁栄と平和の協力的なコミュニティを作ることではなく、お互いに尊重しお互いに思いやり、そしてお互いに公正を果たし、正義を果たすというような社会を作り上げていくことではないかと思います。

第4点としては、できるだけ早くこのような努力を始めるということです。深刻に真剣に積極的に強力にこのようなプロセスを始めるということが非常に大事だと思います。東アジアのコミュニティをつくり上げていくこのプロセスを早く実行すればするほど、われわれのこれからの長い旅が短くなると思います。

このような旅を10年前に始めていたらどうだっただろうと振り返ってみます。その当時日本は経済的にも物理的にも繁栄のピークにあったわけです。10年前日本は自信たっぷりでしたし、希望に燃えていたわけです。今はその自信がどこかに行ってしまい、将来に対する見通しもかなり薄れてしまった、あるいは破壊されたという状況になっています。10年前の生産的な力が一緒になったらどうだったか考えてみましょう。朝鮮半島の問題も今と比べればそんな大きな問題ではなかった時代だったのです。しかし、もう既に10年間を失ってしまいました。これ以上時間を無駄にしてはな

らないと思います。柳井さんも同じようなことをさきほどおっしゃっていたと思います。民主的で多極的な指導力をこの地域で発揮し、そしてこの地域をコミュニティとしてつくっていくための機会が出てくるのが大事です。中国、日本、韓国そしてASEANということで、ASEAN+3が一緒になってやるということが大事だと思います。そうしなければ、チャンスも失われてしまいます。将来的には中国はフレッシュであるというような姿勢を続けていくことはないでしょう。東アジアで一極主義的な指導力を発揮するような形で、リードしていこうなどとは考えてはいけないうでしょう。しかし、この地域における平等な指導力を実現する可能性は、時間が長引けば長引くほど危うくなってしまいます。

そこで、ここで皆さんにも質問をしてみたいと思います。東アジアはこの9月11日の同時多発テロ事件以後どうなるのかということを考えてほしいわけです。その関連において5番目の点を指摘します。中国はこの事件により、10年をもらった感じだと思います。アメリカの原理主義者たち、アメリカの極右の勢力からの介入を受けるという危機を回避したのです。これは9月11日事件が東アジア事件に及ぼした非常に基本的な影響だと思います。

アメリカを「身体に赤蟻がいる人」に例えて話します。アメリカと中東の問題に関して全てが順調にいくとすれば、これから10年の間に赤蟻は15匹くらいになるでしょう。赤蟻は何もあなたの命を危うくするようなことはしませんが、痛みを及ぼし、気

分を悪くさせます。ソックスのところ、首の後ろ、耳の後ろ、そしてひょっとしたらパンツの中にいるかもしれません。しかし、そういうようなことでどういうところを中心に考えていけばいいか悩んでいくことになるでしょう。しかし、アメリカが万里の長城を築くためには、少なくとも10年かかるのではないかと思います。ですから、その10年を使ってアジアはいろいろなことを考えていかなければならないと思います。パネリストに対して、日本が本当の意味での国際化をするべきか、また開放するべきかという質問がありました。そして日本がどの程度、どういうふうに関鎖的であるかについて問われたわけです。日本はいろいろな意味で閉鎖的ですが、また開放的でもあります。かなり国際化されています。日本の国際化されたエリートというのは、世界各国の国際化されたエリートと同じだと見ていいと思います。しかし、グローバル化が知的にも進んでいますが、そういう中においては日本の国際化されたエリートの数というのは非常に少ないと言ってもいいのではないかと思います。あまりにも少なすぎるかもしれません。そういう中で日本のエリートが、ますます活性化されていかなければならないと思います。そして日本の大衆も、世界に対して更に開放的にならなければなりません。新しい考え方、新しい精神構造、新しい心も必要なのではないでしょうか。また、新しい能力も必要なのではないでしょうか。それによって大陸を股にかけ、文化を股にかけ、いろいろな世界の亀裂を股にかけて動いていく

ことができる世界人をつくることが必要な  
のではないかと思います。世界は日本語を  
話せません。ですから多くの日本人は更に  
英語を熟達していかなければならないと思  
います。

最後になりますが、強調したいのは、正  
しい答を求めるためには、とにかくどうい  
う質問を投げかけるのが正しいのかとい  
うことを考えなければならないということ  
です。中国は脅威なのか、それともチャン  
スなのかと尋ねられることがます。正しい質  
問の仕方としては「中国の脅威の可能性を  
最小化し、そして中国の可能性を最大限に  
するにはどうしたらいいのか」というふう  
にするべきではないかと思います。中国の  
ために、そしてこの地域のために、どうす  
るべきかということを開きかけるべきで  
はないかと思います。アジア諸国は日本の役  
割についてはどう考えるべきであるかとい  
うご質問がありましたが、もう一度日本が  
新たな奇跡を起こすことができるかどうか  
ということにつながるのではないかと思  
います。日本人たちは、次の東アジアの奇  
跡を実現するためにどのような役割を果た  
すことができるか。日本がその役割を果た  
して東アジアの奇跡を起こすことができ  
るかどうか問題だと思います。私はとにか  
く日本に期待しているということで、結局  
日本はそういう役割を果たすことができ  
ると思っています。この東アジアの素晴ら  
しいコミュニティを作り上げていく上で堺屋  
先生もおっしゃったように、ヨーロッパの  
人たちが素晴らしいコミュニティを作った  
と同じように、日本もそのような役割を果

たしていくことができるのではないかと  
思っています。